

平成26年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A 3	取組 名称	和束町の歴史と文化遺産
研究代表者： 文学部（文学研究科） 教授・上田 純一 講師・向井 佑介			
研究担当者： 京都府立大学（榎木謙周、横内裕人、藤本仁文、小林啓治、菱田哲郎、東昇、上杉和央、竹中友里代） 外部分担者（藤井孝夫氏）・協力者（中嶋孝浩氏、伊吹学氏、久保寿己氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名） 京都府相楽郡和束町（相楽東部広域連合教育委員会）			
【研究活動の要約】			
<p>京都府南部の和束町は、いま世界遺産登録の可能性が検討されている「宇治茶」の最大の産地である。和束には、京都府の景観資産に登録されている茶畑景観や、鷲峰山金胎寺を中心とした信仰空間など、世界遺産の構成要素となりうる重要な資産がある。しかし、これまでこの地域の歴史や文化遺産に対しては体系的な調査がおこなわれず、それらの歴史的な価値や意義も学術的に明らかにされていなかった。この研究は、そうした問題を解決するため、地域にのこる文書や絵図、茶畑のある景観、人びとの慣習や信仰など無形の遺産、寺社や石造物など有形の遺産を体系的に調査して記録し、それらがどのようにかたちづくられて現在まで伝えられてきたのかをさぐり、またそれらを将来どのように活用していくのかを考えるものである。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>本研究は、1. 寺社と石造物の調査、2. 歴史と景観の研究、3. 古文書の調査と研究という3本の柱からなっている。</p> <p>1. 寺社と石造物の調査の中心となるのが、鷲峰山金胎寺の測量調査で、山頂部分の詳細な地形測量図と境内平面図を作成した。また、鷲峰山頂の宝篋印塔と白栖の弥勒摩崖仏（いずれも1300年造営）の三次元写真測量を実施し、従来にはない精緻で美しいデータとして文化遺産の記録をおこなった。</p> <p>2. 歴史と景観の研究では、和束川流域の古墳や古代の恭仁京東北道についての研究を実施し、和束地域の古代の様相を明らかにするとともに、現在の和束の景観をかたちづくる茶業の歴史的展開、人びとの記憶にきざまれた生活・生業などについての調査研究成果がまとめられた。</p> <p>3. 古文書の調査と研究では、1で測量調査をおこなった鷲峰山金胎寺や弥勒摩崖仏に関係する文献記録を集めてその歴史を明らかにするとともに、湯船の百丈山大智寺や湯船財産区が保管する古文書・古絵図類の調査・記録をおこない、その成果を地域に提供した。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>〈報告書〉 上田純一・向井佑介編『和束地域の歴史と文化遺産』 (京都府立大学文化遺産叢書 第9集、2015年3月) 京都府内の主要な図書館・資料館、全国の大学・研究機関で閲覧可能</p>			
【お問い合わせ先】			
文学部（文学研究科）		講師・向井 佑介	
Tel: 075-703-5269		E-mail: mukai@kpu.ac.jp	

参考 (イメージ図、活動写真等)



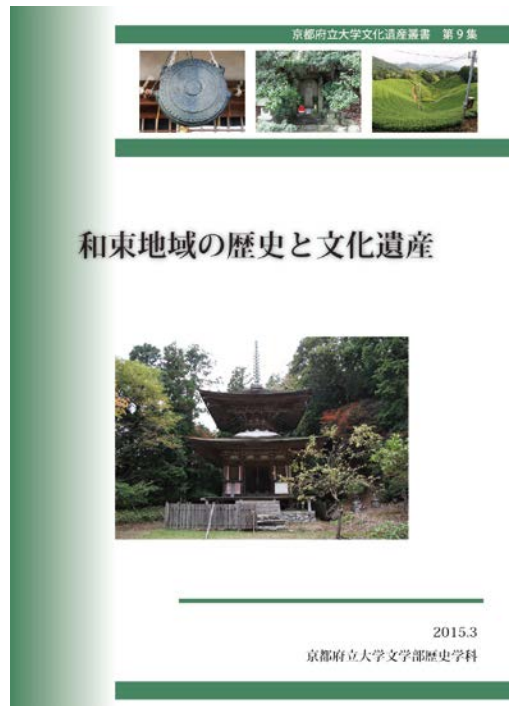
金胎寺宝篋印塔
三次元写真測量によるオルソ画像



白山神社調査風景
(2014年10月19日)



白栖弥勒摩崖仏
三次元写真測量によるオルソ画像



『和東地域の歴史と文化遺産』表紙
(京都府立大学文化遺産叢書第9集)